



国際ロータリークラブ第2620地区 2023-2024年度
RI会長 ゴードンR.マッキナリー
会長 竹田 浩富 幹事 伊原 謙治

朝霧アリーナより



竹田 浩富 会長

例会場 富嶽温泉 花の湯 例会日 毎週金曜日 月の最終週は夜間
事務所 〒418-0003 静岡県富士宮市ひばりが丘805 富嶽温泉 花の湯内 公式HP <http://fujinomiya-west-rc.com/>
TEL.0544-23-2122 FAX0544-23-2122 Mail fujinomiyawestrotary@mountain.ocn.ne.jp

No.33 通算 1564 号 2024 年 4 月 26 日(金)

♪Rotary Songs 四つのテスト

ゲスト・ヴィジター

なし

会長挨拶

会長： 竹田 浩富 君

自転車に乗っている人を危ないと思ったことはありませんか。政府は16歳以上の自転車の交通違反に反則金納付を通告できるとする則切符（青切符）制度を導入することを内容とした新しい法案を決定しました。自転車走行中の携帯電話使用（通称“ながら運転”）や酒気帯びにも罰則を新設しました。この改正法案は成立すれば、青切符制度は公布から2年以内に、そして、ながら運転、酒気帯び運転は6カ月以内に施行することになります。

起訴を見据えた捜査が必要な現状の交通切符（赤切符）は交付より現場での処理時間が大幅に短縮できることになっていて、効率的な取り締まりと違反者への安全運転の指導が可能になります。

青切符対象となる115種類程度の違反のうち、重点対象行為と位置付ける「信号無視」や「指定場所一時不停止」といった違反、運転中に手に持った携帯電話で通話したり、画面を注視したりする、ながら運転も対象になります。反則金を納めずに起訴されて有罪になった場合は、6月以下の懲役または10万円以下の罰金となります。警察官の指導や警告に従わなかったり、歩行者らに危険を生じさせたりした際の交付を想定しているようです。

取り締まり方法は警察庁が施行までに全国の警察に通達し、各地の実情に応じて運用する。反則金の額は原動機付き自転車並みの5千～1万2千円（信号無視8千円、一時不停止5千円、歩道走行5千円、携帯電話を使用しながらの運転1万2千円など）ほどになる見込みとなります。

歩道について自転車は原則走れるんだと思っている人がほとんどだと思います。しかし、それは間違いです、その意識を変えてもらうためにも取り締まりというのは必要だと思います。皆さんも車を運転されますので自転車にはくれぐれも気負付けてください。

幹事報告

幹事 伊原 謙治 君

*別紙幹事報告参照 ・5月11日（土）、岡谷エコーロータリークラブとの合同例会が行われます。服装に関してはジャケット着用で参加下さい。8:30に花の湯駐車場に集合して下さい。

出席報告

	会員数	計算会員数	出席	欠席	MU	比率
今週	22	19	13	9	0	68.4%

欠席者：近藤千佳君 外木規之君※ 中亀秀樹君
早川英寿君 近藤憲司君 遠藤克彦君 大谷裕也君

本日のお祝い

会員誕生日 近藤憲司君 s22.5.3
結婚記念日 竹田浩富君 H1.4.23
貫名英舜君 S54.5.6
遠藤寿男君 S47.5.14
入会記念日 石田道彦君 H19.5.1
遠藤克彦君 H19.5.1
伊原謙治君 H19.5.6

スマイル

○5月前ですが真夏日。体調に注意…石川俊洋君
○西 RC カップ少年サッカー大会開会式にご参加お疲れ様でした…若林眞治君

本日のイベント クラブ協議会

テーマ:国際ロータリー第2620地区 2023-24年度地区

研修・協議会報告 次期会長 石川 俊洋 君

4月14日、上記地区研修・協議会がオンラインで開催されました。当RCから、大谷裕也君、渡邊奈津美君、竹田浩富君、貴名英舜君、石田道彦君、稲原朝美君が参加しました。まずは、23-24年度2620地区カバナーエレクトの小泉久司氏(甲府西RC)の自己紹介があり、1/7-1/11にアメリカフロリダのオーランドで開催された国際協議会ら参加したことの報告がありました。続いて、同年度RI会長ステファニー・アーチック氏の講演の内容、特に、テーマ「THE MAGIC OF ROTARY」の説明、ロゴの解説がありました。たんへん面白い説明ですが、「ロータリーが“全く抵抗できない”魅力であって欲しい」というものがありました。優先事項は次の三項目①会員増強②平和構築③継続性です。会員増強の重点課題としてDEI(多様性、公平さ、インクルージョン/包摂)について、更に理解を加えるべきであるとしました。平和構築に関しては、現在のウクライナ戦争、ガザ侵攻、また、各国で高まる政治的・経済的分断の危険を考慮し、「分断された世界を癒やす」というロータリーの行動計画の終着点を示したのが印象的でした。行動計画については①IMPACT②REACH③ENGAGE④ADAPTという四つの英語に集約された理念が示されたましたが、具体的な活用については後日話します。さて、以上の国際ロータリーの考えを基調に地区としての目標が示される訳ですが、①会員増強②公共イメージ向上③クラブ計画書の充実④各委員会への理解⑤END POLIO⑥ロータリー財団への寄付⑦米山奨学会事業支援⑧ロータリー賞⑨地区大会(11/9|10)⑩国際ロータリー大会(2025.6.21~25 カナダカルガリー)への参加となっています。この内、①については地区として今年度に3000人を復活したいということで、現在2866人ですから約150人~170人の新規増強という目標が示されたこととなります。この増強を果たす上で、各クラブが行動計画、特に地域貢献の事業を展開する場合に、単年度ではなく3年を意識した計画を立てるべきであり、その計画について、ロータリークラブ・セントラルに設定目標を書き込むことを要求されています。今年の入力登録状況は74クラブ中で50クラブが済ませているということで、当クラブとしても、これから協議して登録ができる状況を作りたいと思っています。今後3年間の会長・幹事予定者を設定しなければなりません。このことを会員諸氏にご認識いただきたいと思います。また、ロータリークラブもDX(デジタル・トランス・インフォメーション)化が進んでいます。ケイタイやパソコンをJAPAN ROTARY Portal Siteにつないで置くことが要

求されていると思います。

*特集 会員輪番卓話 「私の職業奉仕」

「資材高騰…公共工事を直撃」 遠藤寿男君

建設資材や人件費の高騰を受け、県内の公共工事で事業費の膨張や工事の遅滞という影響が出て広がっています。また、残業規制が激しくなる“2024問題”で人手不足がさらに深刻化しています。資材価格も高止まりしたままで、工事の計画の見直しが相次いでいます。当初の資産額が370億円ですが、今なら500億円近くになるのではないかと…浜松市の新野球場新設計画を巡り、県議会建設委員会での意見です。県が示した概算事業費は2022年の数字で、直近の資材費、人件費の高騰分は反映していない。県の担当者は浜松市と分担と費用負担を話し合っていて決まっていきたいと述べるにとどまった。他の例として、浜松市沿岸部の津波対策の馬込川河口部の水門の工事費も当初予算50億円に5億円の上積みが必要とされています。JR沼津駅付近の鉄道高架事業では全体事業費が1.3倍の1,034億円となり、完成も7年程度遅れる予定とか。伊東市では新図書館の建築工事が予定され、入札が行われたが不調。当局としては建築物の規模縮小を視野に入れ、再設計を余儀なくされているようです。全国においては、25年大阪万博会場の建設費が当初の想定より大きく上振れしています。北海道新幹線の札幌延伸も遅れる見通し。コロナ禍で下落傾向にあった建設資材価格が、アフター・コロナで社会活動が再開されたことに伴い、上昇に転じたのが原因です。また、事業者の方も利益率の高い工事受注を優先する超売り手市場が続いています。具体的な資材価格ですが、建設物価調査会の調べによると、軽油が1.3倍、生コンが1.5倍、鉄筋が1.6倍となっているようですが、これらも、円安や戦争の影響でこの先どうなっていくか不透明です。そして、それに追い打ちをかけるのが若い労働者が減ることによる人手不足です。人手を集めるために賃金を上げるしかなく、労務単価は12年連続で上昇しています。これに拍車をかける形で、本年4月から時間外労働の上限規制が適用され、さらに労働力の確保が難しくなっています。また、日本は地震や台風などの自然災害が多い国ですから、建設業界は常に災害復興事業への対応に向けて準備しておかなければなりません。どうすれば、この困難な状況を乗り切って、建築業を通じての社会貢献ができるか。今、建築業界では、次の時代に向けて、労働賃金について充分なものを確保すること、働き方のついで改革について真剣に向き合うことを第一にコストの適正化を図ることが進められています。しかし、資材の国際価格の高騰はまだ根本的な解決の様相は見せていません。